

# 旭地域の夢プラン

～二つの街道が織りなす町 いきいき田舎暮らし～



平成31年3月  
旭地域夢プラン策定委員会

## 目 次

1	地域の概況	1
2	地域でのこれまでの主な取組	2
3	地域の将来像と夢プランの実現	3
4	ワークショップにおける、その他意見やアイデア	7
5	夢プラン策定委員名簿	8

## 1 地域の概況

### (1) 人口・高齢化率等（平成 30 年 4 月 1 日）

- ・人口 1,606 人（明木地区 957 人 佐々並地区 649 人）
- ・65 歳以上人口割合 51.56%
- ・集落数 32

### (2) 自然・地理

旭地域は山口県のほぼ中央に位置し、明木地区と佐々並地区により形成され、両地区とも冬季は寒冷で積雪が多い。

明木地区は、萩往還と赤間関街道の交通の要として栄えた地区である。中心部である明木市には石州瓦の赤い屋根の町屋が連なり、往時の面影を残している。周辺部では深い緑の山々を背景に農耕が営まれている。

佐々並地区は、中国山地の西端部の麓に位置する中山間地域で、佐々並川が開いた谷底平野と段丘に集落が点在している。江戸時代には萩往還の宿場町として栄え、現在も近世の町割りがよく残り石州赤瓦の町並みが周囲の棚田などと一体となって宿場町の風景を伝えており、佐々並市は国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。



重要伝統的建造物群保存地区佐々並市

### (3) 産業

旭地域の基幹産業は農業であり、米や野菜の生産が主である。

明木地区には「農産物加工販売所つつじ」が、また佐々並地区には「道の駅あさひ」が設置され、地域で生産された農産物をはじめとした特産品を販売している。

こうした地域の核施設における物産展や萩往還のウォーキング大会など、地域資源を活用したイベントも実施されている。

また明木地区では地域高規格道路小郡萩道路の整備が進められており、今後は交通の便にも恵まれた地区として移住者の増加や企業の誘致も期待できる環境整備が進んでいる。

## 2 地域でのこれまでの主な取組

旭地域は古くからの町並みが残るとともに、国指定史跡「萩往還」や「重要伝統的建造物群保存地区佐々並市」などの資源がある。

これらをいかした「萩往還まつり 技・明木展」や「萩往還ささなみおいでん祭」などのイベントを開催し、交流人口の増加を図っている。



萩往還まつり 技・明木展



萩往還ささなみおいでん祭

主な取組	実施主体等
萩往還ワンデーウォーク	萩往還ワンデーウォーク実行委員会
萩往還まつり 技・明木展	萩往還工芸まつり実行委員会
舞台芸術フェスティバル	明木母親クラブ
アユのつかみどり大会	鮎のつかみどり実行委員会
明木地区ふるさとまつり	明木ふるさとづくり推進協議会
ささなみふるさとまつり	ささなみふるさとまつり実行委員会
明木地区農業文化祭	明木ふるさとづくり推進協議会
萩往還ささなみおいでん祭	萩往還ささなみおいでん祭実行委員会

### 3 地域の将来像と夢プランの実現（夢プランの展開図）

地域の将来像、目標、実現に向けた行程をワークショップにおいて検討し、夢プラン実現に向けての行動計画（夢プランの展開図）として次のとおり作成した。

#### （1）道の駅あさひ、農産物加工販売所つつじについて

##### 《地域の将来像》

地域の核施設である道の駅や農産物加工販売所に賑わいを創出する。

##### 《目標》

「道の駅あさひ」と「農産物加工販売所つつじ」の集客力強化を図る。

#### （2）萩往還をいかした旭地域のファン増加について

##### 《地域の将来像》

萩往還をいかし旭地域のファンを増加させる。

##### 《目標》

地域を代表する資源「萩往還」を手軽に楽しめるサービスを提供し利用者の増加を図る。また、イベントを開催しリピーターや新規訪問者を増加させるとともに、道の駅などの地域資源と結びつける仕組みをつくる。

#### （3）「道の駅あさひ」と「重要伝統的建造物群保存地区 佐々並市」の集客力向上について

##### 《地域の将来像》

「道の駅あさひ」と「重要伝統的建造物群保存地区佐々並市」に賑わいを創出する。

##### 《目標》

「道の駅あさひ」と「重要伝統的建造物群保存地区佐々並市」は、佐々並地区の重要な資源。それぞれの資源の集客力向上を図り、両資源を連動させる仕組みで相乗効果を発揮させ、賑わいを創出し収益を獲得する。



旭地域 夢プランの展開図

(1) 道の駅あさひ、農産物加工販売所つつじについて

地域の将来像	目標・イメージ・効果・役割		
<p>地域の核施設である道の駅や農産物加工販売所に賑わいを創出する。</p>	<p>◆<b>目標</b> 「道の駅あさひ」と「農産物加工販売所つつじ」（以下「核施設」という。）の集客力強化を図る。 【数値目標】 ・道の駅あさひ入込客数 2017年度180,000人⇒2023年度200,000人 ・農産物加工販売所つつじ入込客数 2017年度90,985人⇒2023年度110,000人</p> <p>◆<b>イメージ</b> ・新たなイベントを開催し、新規利用者を獲得する。 ・鮮魚や定食の販売などニーズに応える事業を展開し集客力を強化する。 ・地元産野菜の集荷サービスを改善し商品を確認する。 ・集荷サービスでは各施設への送迎サービスも併せて検討する。</p> <p>◆<b>効果</b> ・イベントの開催やニーズに応えるサービスを提供することにより、地域の核施設として再認識され、野菜の出荷をはじめとして施設運営に協力する住民意識の高まりが期待できる。 ・集荷サービスを実施することにより、地域で埋もれそうになっている生産物の活用が図れる。 ・送迎サービスに併せ地域のニーズに応える商品を販売することにより、地域住民の利便性が向上する。</p> <p>◆<b>役割</b> ・団体 事業の実施 ・住民 野菜の出荷・イベントの支援 ・行政 事業立ち上げ段階の支援・有償旅客運送許可など法的支援</p>		
<b>目標に向けた取組</b>			
<b>1～2年目</b>	<b>3～4年目</b>	<b>5年目</b>	
<p><b>1 イベント</b> ・核施設を会場とした体験イベントや音楽イベントなどの企画立案。 ・既存の行事との調整。</p> <p><b>2 鮮魚販売</b> ・大島の鮮魚を中心に、魚の仕入れルートや移動販売車による販売方法などについて関係者で調整。 ・実証実験を実施。 ・実証実験を検証し、事業化に向け収支の見込みを検討。</p> <p><b>3 飲食営業</b> ・道路工事業者のニーズに合わせたメニューを検討。 ・店舗の設置。 ・運営開始。</p> <p><b>4 集荷サービス</b> ・既存の集荷サービスの運営を検証。 ・鮮魚移動販売車の活用を含め集荷方法の検討。 ・実証実験を実施。</p>	<p><b>1 イベント</b> ・実証実験の実施。 ・実証実験を検証。 ・事業化</p> <p><b>2 鮮魚販売</b> ・事業化</p> <p><b>3 飲食営業</b> ・朝食の提供など新たな事業展開を検討。</p> <p><b>4 集荷サービス</b> ・実証実験を検証。 ・各施設への送迎を併せたサービスの検討。</p>	<p><b>1 新たな展開</b> ・地域の核施設として、ニーズに応える新たな事業を検討。</p>	

旭地域 夢プランの展開図

(2) 萩往還をいかした旭地域のファン増加について

地域の将来像	目標・イメージ・効果・役割		
<p>萩往還をいかし旭地域のファンを増加させる。</p>	<p>◆<b>目標</b>                      地域を代表する資源「萩往還」を手軽に楽しめるサービスを提供し利用者の増加を図る。また、イベントを開催しリピーターや新規訪問者を増加させるとともに、道の駅などの地域資源と結びつける仕組みをつくる。                      【数値目標】                      萩往還観光客数                      2017年度17,845人⇒2023年度22,000人</p> <p>◆<b>イメージ</b>                      ・萩往還利用者の実態やニーズ調査を行いウォーキングをより手軽に楽しめるサービスを実施し、利用者の増加を図る。                      ・イベントの開催や萩阿武川温泉と萩往還ウォーキングのセットプランなどを企画し、萩往還ファンの増加を図る。                      ・萩往還と道の駅、農産物加工販売所、重要伝統的建造物群保存地区などの地域資源と結びつける仕組みを開発する。</p> <p>◆<b>効果</b>                      ・萩往還ファンを増やすことで旭地域の交流人口増加が期待できる。                      ・道の駅、農産物加工販売所、重要伝統的建造物群保存地区などに立ち寄る機会を増やすことで、各施設の収益の増加が期待できる。</p> <p>◆<b>役割</b>                      ・団体 事業の実施                      ・住民 イベントの支援                      ・行政 実施団体の支援、萩往還の整備</p>		
<b>目標に向けた取組</b>			
<b>1～2年目</b>		<b>3～4年目</b>	<b>5年目</b>
<p><b>1 萩往還の利便性向上</b>                      ・萩往還利用者の実態及びニーズ調査を実施。                      ・利用者のニーズに合わせたサービスの検討。                      ※萩往還をウォーキング後、出発地点まで戻る移動手段が欲しいとの意見あり。                      ⇒萩往還のガイドと送迎サービスをセットにしたサービスの検討。                      ⇒路線バスのダイヤに併せたウォーキングコースの検討。                      ・調整後、実証実験の実施。</p> <p><b>2 萩往還ファンの増加</b>                      ・萩往還利用者の実態及びニーズ調査を実施。                      ・利用者のニーズに合わせたプランの検討。                      ※健康志向の高いシニア層をターゲットにしたプランを企画。                      ⇒ウォーキングと萩阿武川温泉のセットプランを企画。                      ※春休み、夏休みの子どもたちをターゲットにしたプランを企画。                      ⇒ウォーキングと加工体験のセットプランを企画。                      ・調整後、実証実験の実施。</p> <p><b>3 萩往還と地域資源を結ぶ仕組みの開発</b>                      ・萩往還利用者の実態及びニーズ調査を実施。                      ・利用者のニーズに合わせたプランの検討。                      ※レンタル自転車の配置                      ⇒萩往還沿いの施設にレンタル自転車を配置し、地区内の施設を周遊できる環境整備を検討。                      ・調整後、実証実験の実施。</p>		<p><b>1 全事業</b>                      ・実証実験の検証。                      ・事業化</p> <p><b>2 萩往還ファンの増加</b>                      ・農家民泊のカリキュラムにウォーキングを組み込むことを検討。                      ・ボーイスクウトにウォーキングと体験プランをPR。</p> <p><b>3 萩往還と地域資源を結ぶ仕組みの開発</b>                      ・各施設の売上への効果を検証。                      ・施設ごとに萩往還利用者をターゲットにした商品を検討。</p>	<p><b>1 全事業</b>                      ・実態及びニーズ調査を実施。                      ・新たなサービスやイベントの検討。</p>

旭地域 夢プランの展開図

(3) 「道の駅あさひ」と「重要伝統的建造物群保存地区佐々並市」の集客力向上について

地域の将来像	目標・イメージ・効果・役割		
<p>「道の駅あさひ」と「重要伝統的建造物群保存地区佐々並市」に賑わいを創出する。</p>	<p>◆目標 「道の駅あさひ」と「重要伝統的建造物群保存地区 佐々並市」（以下「伝建地区」という。）は、佐々並地区の重要な資源。それぞれの資源の集客力向上を図り、両資源を連動させる仕組みで相乗効果を発揮させ、賑わいを創出し収益を獲得する。 【数値目標】 ・道の駅あさひの年間入込客数 2017年度2017年度180,000人⇒2023年度200,000人 ・萩往還おもてなし茶屋（旧小林家住宅）の年間入込客数 2017年度4,777人⇒2023年度6,200人</p> <p>◆イメージ ・季節ごとのイベントや道の駅と連動するイベントを開催し、伝建地区の訪問者増加を図る。 ・萩往還おもてなし茶屋や空き家を有効活用し、伝建地区の訪問者増加を図る。 ・佐々並地区の特産品をいかした目玉商品を販売し、道の駅あさひの利用者増加を図る。</p> <p>◆効果 ・2つの資源の集客力を向上させるとともに両資源が連動する仕組みをつくることにより、賑わい創出の相乗効果が期待できる。</p> <p>◆役割 ・団体 事業の実施 ・住民 商品開発への協力・イベントの支援 ・行政 事業立ち上げ段階の支援・広報支援</p>		
目標に向けた取組			
1～2年目		3～4年目	5年目
<p>1 伝建地区におけるイベント ・季節ごとにターゲットを明確にしたイベントを企画。 ※夏休みの小中学生をターゲットにした宿題完了型体験イベント。 ※主婦層やシニア層をターゲットにした佐々並豆腐やこけ玉作り体験イベント。 ※幼児や小学生をターゲットにした、しめ縄づくり、もちつきなど正月準備体験イベント。 ・既存の行事との調整。 ・実証実験の実施。 ・実証実験の結果を検証。</p> <p>2 伝建地区の萩往還おもてなし茶屋や空き家の活用 ・萩往還おもてなし茶屋での婚礼や宿泊プランの検討。 ・佐々並地区の事業者による空き家の活用を検討。 ・実証実験の実施。 ・実証実験の結果を検証。</p> <p>3 道の駅あさひにおける佐々並地区の目玉商品販売 ・佐々並地区の特産品である米をいかした目玉商品の開発を検討。 ※米の量り売り ⇒山陽方面をターゲットに、佐々並地区の農事組合法人が生産した米の量り売りを検討。 ※加工品の開発 ⇒佐々並地区の米をつかった、もち・パンなどの加工品開発を検討。 ・農事組合法人や事業者と協議、調整。</p>		<p>1 伝建地区におけるイベント ・事業化</p> <p>2 伝建地区の萩往還おもてなし茶屋や空き家の活用 ・事業化に向け収支の見込みを検討。 ・事業化</p> <p>3 道の駅あさひにおける佐々並地区の目玉商品販売 ・調整後、実証実験。 ・実証実験の結果を検証。 ・事業化に向け収支の見込みを検討。 ・事業化</p> <p>4 伝建地区と道の駅の連動企画 ・2つの資源をつなげる仕組みの検討。 ・実施。</p>	<p>1 全事業 ・事業の内容を検証。 ・訪問者のニーズを調査し、新たな事業を検討。</p>



#### 4 ワークショップにおける、その他意見やアイデア

- ・他の地域にはない付加価値を付けた貸し農園ができないだろうか。
- ・無人市場のステーションマップを作成してみてもどうか。
- ・萩市の充実した子育て政策と、旭地域は土地が安く山陽側に近いという地理的なメリットをPRし、定住者の増加につなげられないだろうか。
- ・イベントの開催日が重なる時は、萩市全域のイベントハシゴMAPを作成し一体的にPRしてはどうか。
- ・萩市内の道の駅を巡る自転車イベント「ツール・ド・萩」を開催できないだろうか。
- ・旭地域と田万川地域や須佐地域のジオパークと連動したスタンプラリーが企画できないだろうか。
- ・子供会行事や学校行事で萩アクティビティパークを活用できないだろうか。
- ・佐々並地区の萩市旭農林漁業者等山村広場をレノファ山口の練習場にできないだろうか。

## 5 旭地域夢プラン策定委員（五十音順）

石津 里美	伊藤 一示	伊藤 孝二	大玉 功
上島 華代	久木田 孝章	久保 洋巳	水津 芳子
田口 真希	笠井 英里	佐内 忠治	中村 亜夜子
橋本 実	弘中 誠	福本 久志	藤井 美恵子
光田 聡	森永 江里子	山本 浩二	山根 啓二



### 【～私の宝・私の挑戦～】





旭地域夢プラン策定委員会

萩市 地域政策部地域づくり推進課